

地域社会貢献の新しいモデルに

草の根の交流を通じて日豪の強い絆を

～新日鉄オーストラリア社における国際交流の取り組み

日豪友好条約締結30周年、新日鉄オーストラリア社(NSA)設立30周年の節目の2006年11月に、西オーストラリアの鉄鉱石積み出し港に近いポイントサムソン地区住民が大分市を訪れ、^{あけのにし}市立明野西小学校の児童との交流会、市役所訪問、大分製鉄所見学を行った。

この交流は、ローブリバー・ジョイントベンチャー(*), NSA、大分製鉄所が協力して実現したもので、30年の原料取引で培われた絆を市民レベルの国際交流を通じて深めていく、新日鉄の新しい社会貢献の試みとなった。



節目の年を機に、市民交流を実現

2006年に設立30周年を迎えた新日鉄オーストラリア社(NSA)は、鉄鉱石や石炭といった資源関連プロジェクトや、自動車用鋼板をはじめとする鉄鋼製品の販売および技術サービスの分野で、日本とオーストラリアを結ぶ活動を続けてきた。

2006年は日豪友好条約締結30周年にもあたることから、「日豪交流年」としてさまざまな文化・人の交流が企画実行されており、NSAは大分鐵心太鼓のシドニー公演の実現などにも協力している。

中でも注目すべきは、原料の供給者と使用者というつながりを持つ、西オーストラリアポイントサムソン(Pt. Samson)地区の住民と大分市の交流が始まったことだ。これは、NSAが権益を保有するローブリバー・ジョイントベンチャー(Robe River Joint Venture)より、その地元地域と大分製鉄所周辺地域との交流を打診され、NSAと大分製鉄所が全面協力を申し出て実現した。

具体的には、両地域の小学校の姉妹校提携への協力、ポイントサムソン地区住民の大分への招待、立命館アジア太平洋大学への寄付講座、および在大分の大学と西オーストラリア大学の学術協定の支援などを行っている。

NSA 小林啓晃社長

新日鉄オーストラリア社

NSAは、皆さんのサポートをいただいて30年の長きにわたる豪州での歴史を刻むことができました。こうした節目にあたり少しでも日豪関係に貢献できればとの思いから本企画を進めています。原料の出荷元と使用する側それぞれの地域社会を結ぶというアイデアが、両地域の方々の好意と関心に支えられて10年、さらに20年と継続し、当社が新しい切り口での地域貢献を実現できることを願っています。



NSAスタッフ(左から3人目小林啓晃社長)

* ローブリバー・ジョイントベンチャー(Robe River Joint Venture)：西オーストラリア州北西部の鉄鉱石生産会社。NSAが10.5%、豪英資源大手のリオ・テント社が53%の権益を所有。

姉妹校提携への協力

子どもたちの交流の輪が広がる

本交流の中でも特に、継続的な発展が期待されるのは、西オーストラリアのウィッカム小学校 (Wickham Primary School) と大分市立明野西小学校との姉妹校提携である。NSAは、明野西小学校にテレビ電話を寄付したが、これは両校生徒が、英語・日本語による交流を通じて、国際感覚を醸成し相互理解を進める機会となる。また、11月22日には、ウィッカム小学校の代表生徒2名と先生が明野西小学校を訪問して、交流会が開かれた。

学校間の連携を活動の中核としており、「姉妹都市」と異なり、地域に根ざし、反復性・継続性がある取り組みとして期待される。



ウィッカム小学校 プリズミック校長



ウィッカムは小さな町ですが、自然に恵まれた美しいところです。明野西小学校との姉妹校提携、大分市との交流により、双方の子どもたちが広く世界に目を向けて成長することを願っています。

ウィッカム小学校代表 モーガンさん



こんなに歓迎されるとは思わず、びっくりしました。交流会はとても楽しかったです。

ウィッカム小学校情報

ウィッカム小学校はローブリバー鉱山の積み出し港周辺地区住民の子どもたちが通学し、日本の幼稚園・小学校・中学1年生に相当する生徒が在籍(全校生徒344名) 小学校中学年からは初等日本語教育も行われている。

明野西小学校 小野善寛校長



子どもたちは今回の交流会をとっても楽しみに準備してきました。今後テレビ電話などを通して交流を深めていくことは、両校にとって非常に良い刺激になります。ぜひ継続・発展させていきたいと思えます。

製鉄所への招待

鉄鉱石が製品に変わる姿に感動

来日したポイントサムソン地区住民一行は、大分市役所を訪問して、釘宮大分市長と面会した後、大分製鉄所を見学した。一行からは、広大な原料ヤードや鉄がつくれる工程に、驚きの声が上がった。



ウィッカム小学校代表 ジェイク君



鉱山から出荷された鉄鉱石が製品となる姿を見るのは初めてだったので、感動しました。

大分製鉄所総務部長 丸川裕之



原料を送り出す町と製鉄所のある町の皆さん方が、国際的な草の根交流を行うというのは、かつてないことではないでしょうか。大分製鉄所としてもこの交流が未永く続き、大きく発展することを願っており、橋渡し役としてお役に立てるよう協力していきたいと思えます。

大学の相互理解活動への協力

鉄鋼資源への理解を深める

NSA小林啓晃社長は、7月5日、大分大学にて「オーストラリアの鉄鋼資源と日本の製鉄」について講演した。また、2007年2月に立命館アジア太平洋大学(別府市)において鉄鋼産業ならびに資源概論を中心とする寄付講座を開設予定。さらに、在大分の大学と西オーストラリア大学との学術協定締結にも協力している。

日豪交流年のイベントへの支援

大分鐵心太鼓 シドニー公演

1976年に大分製鉄所の社員有志を中心に結成された鐵心太鼓は、地域に根付いた活動を続けてきた。設立30周年を迎えた10月14日、シドニーのダーリングハーバーで開催された「日本の祭り」に出演。延べ3万人を越える観客を迎え、大盛況となった。



大分製鉄所 製鉄工場 山野内英雄(鐵心太鼓リーダー)

初のオーストラリア公演。私の不安を吹き飛ばし、鐵心太鼓の響きはオーストラリアの人々に感動を与えることができたと思います。「世界の人の心に響く」太鼓の魅力を実感し、今後の活動の糧となる貴重な経験となりました。